

中国軍事工業の軍民融合と民間企業の武器輸出

漢和防務評論 20170705 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国の軍事工業は今まで国営企業として政府の手厚い支援を受けてきました。しかし今後は、国に依存するだけでなく、企業努力によって輸出を創出し、巨大軍事企業を目指して発展しようとしています。
今年 2 月の IDEX 国際武器展示会（於：UAE）の会場をみると、中国の武器メーカーは（地図上で見ると）展示場の中心部に広大な展示スペースを設けていました。

KDR 平可夫アブダビ特電：

中国は、軍民融合の軍事工業生産体系を構築しつつある。習近平自身はその先頭に立っている。中国軍事工業界の消息筋は KDR に対し次のように述べた：中国は、民間会社に武器システムの生産を委託する方向に向かっている。このような軍事工業の管理体制への移行は迅速に進むであろう、と。

民間軍事生産企業である HTJC（細部は不明）の最初のショールームが 2017 年にアブダビにすでに出現した。彼らは、多種類の誘導ロケット製品を推奨していた。GR122-I 型 122MM 誘導ロケット弾は、最新の製品であり、旧式の 122MM ロケット弾を改修したものである。誘導方式はミッドコースが GPS/GNASS を採用（地磁気パルス修正（意味不明））、最大射程は 40KM、CEP は 60M 以下である。この種の弾薬で KDR が最も興味を持ったのは PAC-3 地对空ミサイルと同様の方向修正方式（DIRECT LATERAL FORCE CONTROL）を採用していたことだ。この種の技術は相当むつかしく、現在その他の国で 122MM 砲の弾薬に類似の修正方式を採用している国はない。

担当者は次のように述べた：上述の中国国営企業以外は新技術を採用していない。また彼らの有利な点は、価格を極めて重視していることだ。例えば GR122-I の弾薬価格は 1 発 11000 ドルである、と。発射車も彼らの自力設計したものである。底盤はロシアからの輸入で、発射器、車室は会社の自力設計である。戦闘重量は 14000KG、北斗（BD）定位誘導、6×6 輪、道路上での最大速度は時速 120KM である。40 発の弾薬を搭載する。2 個のモジュールで構成され、各モジュールは 20 個の発射器がある。同会社は、長征会社を通じて、中東及びその他の国家にこの種のロケット砲を輸出する計画がある。

また同会社は、2 種類の 120MM の GNASS 誘導迫撃砲弾を推奨している。射程は、それぞれ 6、6.5KM で、重量はそれぞれ 16、14.5KG である。誘導方式は、それぞれ衛星＋半主動ターミナルレーザー誘導、及び地磁気パルス誘導（衛星＋GEOMAGNETIC）（意味不明）である。CEP は、それぞれ 2M、25M で

ある。

また軍民融合の民間軍事企業は、専ら輸出専用である NATO 制式の火砲系統を生産している。また同公司は GR227- I /II 型口径 227MM 多連装ロケット砲を推奨している。射程は 25 乃至 70KM である。I 型弾は、ミッドコース衛星誘導、CEP は 50M である。弾頭重量は 80KG、弾薬の長さは 4800MM である。II 型弾は、衛星+ターミナル半主動レーザー誘導で、CEP は 5M である。

軍民融合の後、中国軍事工業の対外競争力は高まるのか？中国国内市場における国営企業間の競争はどうか？今後注目する必要がある。
このことは、過去に疲弊した一部の国営工場が復活し、株式会社化した民営企業に発展することを意味する。

以上